

(離島研修レポート)

与論島及び沖永良部島交流視察研修

佐賀県 加部島 山口 初

平成 22 年 10 月 22 日~24 日全国離島振興推進員連絡委員会の離島交流視察研修に参加した。参加者は会長、会員・事務局総勢 25 名で、本年の研修地は鹿児島県の離島で、沖縄県に近い奄美南部地方の与論島及び沖永良部島です。

全国各地から鹿児島空港に集合して 11:40 プロペラ機(80 席) に搭乗、13 時与論島に到着。(約 70 パーセントの搭乗率)

奄美が豪雨水害に見舞われた直後であり、与論島も土砂降りの中、与論町長はじめ地元関係者の方々に温かいお出迎えをいただき、バスでの視察研修、その後地元の方々との意見交換会、懇親交流会となった。

『持続可能な島』づくりプランの実現にむけて

「町勢」要覧から、太古の昔より、『奄美世』『按司世』『那覇世』『大和世』『明治・大正』『戦後』の歴史の中で、植民地的・奴隷的な支配もされて来たなかでも、単独生き残りが出来てきた島であり、現今においてはなお『持続可能な島』づくりは最も大切なことだと思います。

『情報の島』作りプラン、光ブロードバンド環境整備、そして頭脳づくり、与論の創造プラン、島の人々が澁む事なく守ることなく、常に外への発信と先進導入が活発に行われていること、鹿児島県の力も相応して活かしての『持続可能な島』づくり、これからも更なる期待に満ち溢れている島であり、一致団結が構築されている元気な島と印象付けられました。

研修全般の概要については同行の東京七島新聞社の松本社長さん、青山さんからのご報告に甘えさせていただき、私は専業で生計を立てている農家の立場から研修で感じたことを率直に意見させていただきます。

島単独で生き残るためには、島の大きさ、耕地面積、家畜(牛)の数、人口、水のほか、環境等が相対してのバランスが特に重要だと思います。

今日までずっと『水』天水の確保のために、智慧で守られてきたサトウキビ栽培、これがどれほど土壌、水環境を守ってくれたか、これを忘れてはならないと思います。淡水化事業の成功で十分すぎる水量の確保と美味しい飲料水が出来ていること、その技術力にはとても感心しました。

だからといってこの後、農業の肥料や畜産糞尿厩肥等で地下水の汚染を見過ごされないように、特に農業の循環バランスを崩さないことがのぞまれます。有機物循環農業は私も一番理想とするところなのですが、何でも豊富にあるからといって投入しすぎからは良い結果はもたらされないと思います。特に畜糞尿堆肥作りにはまだ沢山の研究課題が残されてはいないだろうか、良質の堆肥とはどのようなものなのかというところの理解度はまだ不十分ではないのかな

と感じました。

完成して販売されている堆肥を見ていませんので何とも言えないのですが、もっともっと奥を究める必要があるのではないのでしょうか。現に畜糞尿厩肥が豊富にあるのだから、窒素肥料効果をねらうよりも、害を及ぼさない完熟から腐植にまで進めた持続型農業のための堆肥作りをされたらいかがでしょうか。これこそが現今取りざたされている生物多様性の基ではないのでしょうか。屋久島の土着菌を活用した地力センター、壱岐では設備力で悪臭のない堆肥センター、民間でも有用微生物群の活用で良質堆肥づくりに成功されている方もあります。

参考ですが、後の研修地、沖永良部島のサトウキビ等の植生の葉の色と与論島のサトウキビ等植生の葉の色とはかなり違うように感じました（与論の方は黒緑色(濃緑色)、沖永良部の方は若竹色の鮮やかな輝きのある色でした)。私は沖永良部島のサトウキビの色の方が健康で自然力を引き出したものではないかと感じています。沖永良部島のサトウキビは10アール8.118トンの実績であること、農家人口が10年前より12パーセント増加して、内専業農家も増加している。意見交換の場で『観光よりも農業に力を入れている』と自信あふれる発表をされたのが印象的でした。

与論町堆肥センターが出来てから4年ほどですが、これまでは良かったのかもしれませんが私の目にはこれから先のこと、植生の色姿が気になりました。窒素とカリの過剰、塩基の蓄積障害、フザリウム菌の警戒もあるかもしれませんが、『自然との共生と循環型社会の構築』循環とは自然と相整うものであるために出来の良くない堆肥を多量に畑に投入する行為は土壤環境の自然を壊すことになりかねないので、「良質の堆肥を土地柄に応じて適量に」ということを申し上げたい。ここの耕作地はサンゴ化石が風化して出来た有機質カルシウム土壌ですから、有害物の分解、浄化などが出来るので急には害が出にくいという有利性があるのかもしれませんがね。

畜産農家は厩肥を買い上げてもらえるから良いのですが、堆肥を購入して使われる一般農家の方々には少し高すぎではないのでしょうか。堆肥の質にもよりますが、本当にいい堆肥を作ってくださいがあればありがたいのです。

農作業が安全に出来るということはとても魅力ですね。猛毒のハブがいない、猪、鹿、猿などの作物に対して有害動物もいないし、鳥は2~3羽飛来してきても徹底的に初期段階で駆除している。こうなると頭の良い鳥は飛んでこないのではないか。

都市に近いある島が失敗したのは、島に動物園を作ってそこから猿が逃げ出して野生化、繁殖したために、果樹等の栽培が出来なくなったのではないかと。もともとは有害動物がいなかった島に、イタチなどが持ち込まれたことにより、

野鳥が繁殖できなくなったという島。ハブに対するマングースもその一例でしょうか。日本本土では、熊が人里に出没して人の命まで脅かされる。猿や猪、鹿などが農作物を食い荒らしている。先日の新聞記事に街中に現れた親子熊を射殺したところ、なぜ殺したという抗議電話等が殺到したという。地域は困惑しているとありました。

牛はどんどん殺して人が食っているのに、人命にまで危害を与える野生動物の駆除は必要でしょう。日本の農家が減っていく中、こういうことを言う人たちも鳥獣害で困っている様などころで農業をやってみて自給率を上げてくれればいいのにね。外来動物をペットとして飼って捨てる無責任な行為の結果、アラグマやねずみの化け物みたいなやつ、外来種のタニシの猛繁殖などなど、農業が出来ないくらいに脅かされて、動物から人まで食糧難に拍車がかかる。大陸が食糧難になることは予想して置かなければならないことでしょう。そう、わが国の農業自給はもう急務なのです。明日の食料がどうなるかわからない時代になったのです。今、中国から砂糖の需要が多い状態なので、砂糖の値段が急騰しているのでお菓子等の製造をされている方は大変です。島の皆さん、これからもサトウキビの生産は島の基盤と思います。地味で大変と思いますが頑張ってください。畜産については何時発生するかわからない口蹄疫が心配ですね。健全な生物多様性が保たれることが一番ではないかと思います。

意見交換会ののち公民館に場所を移して、地元から40名近くの方々がお集まりされての大歓迎を受けて懇親交流会となった。地元有志の方から沢山の焼酎が寄せられていました。私は、晩酌はしないし、むかし焼酎を飲みすぎて急性膵炎になり、とてもきつい思いをしてからはもう20年近く焼酎を飲んでいないので少し恐怖感を感じていましたが、与論献法とかで飲まされました。というより調子が良すぎてかなり飲みました。サトウキビ焼酎は飲みやすい美味しい焼酎でした。懇親会後も片手に焼酎、もう一方に料理一鉢を下げて仲間の部屋でやろうと呼びかけましたが、皆さん全員厚いもてなしで、もうイケない様子、あとは少しだけ飲んでおやすみとなりました。

翌朝の目覚めはいつもと変わらずスッキリしている。

プリシアリゾートで朝食、前夜の持ち出した料理をがんばって減らしたため、味噌汁と牛乳とデザートで軽く済ませる。海が好きな孫(小4年)は岡山県白石島(原田さん)と海岸に行き貝殻を集めてきた。原田さんは海とともに生きておられる方で沢山の方々を瀬戸内の島に受け入れられてご指導されている活動家です。

二日目の研修です。島の高台にある琴平神社は昔からの掟が今も崩されずに伝承されている神社のようだった。ここからの展望は南西方に沖縄本島、西方

には伊是名島、伊平屋島が見えた。

与論島と緯度が同じ位置にある伊是名島、伊平屋島には7年前に訪れましたが、鹿児島までの交通の利便さには恵まれていません。むしろこの与論島と伊是名伊平屋島との間に交通アクセスがあれば便利のように思えました。サザンクロスセンター、民族村をまわり、『蒼い珊瑚礁』でモズクそばでの昼食。皆が昼食も終わらないうちに、もう孫(小4年)はシージィ(海のじいちゃん)原田さんを伴って『蒼い珊瑚礁』の海へ降りて、裸になり泳いでいた(10月23日のこと)。サンゴ石を沢山拾ってきて、貝殻に続きまた重い土産となった。

与論島(茶花港)12:10 発 マリックスライン大型フェリーで次の研修地沖永良部島へ向かう。

奄美大島では何日も雨続き1日で1年分に相当する豪雨をもたらして大水害を引き起こしていた。台湾の西方には大型で強い台風13号が大陸の高気圧に行く手を阻まれて停滞しており、また大陸の冷たい高気圧と太平洋の暖かい高気圧がぶつかって積乱雲がちあがり豪雨をもたらしている奄美付近の前線との間隙の中での離島研修。前日与論空港では豪雨が出迎えてくれたものの、その後雨は止み傘の要らない研修が出来た。

マリックス大型フェリーが与論島を出港後には再び大きな積乱雲が与論島の上に立ち上っていた。沖永良部島の南東側の和泊港に寄港予定だったが、北西側の伊延港に変更された。マリックス大型フェリーは西から風を受けて大きく右舷側に傾いて航行していたが、途中からは船首(北東)から波頭が向かうように風向きが変わっていた。前線の南下により、前線の境から北へと船が出たためだろうか。大型フェリーの屋上は波しぶきで洗われ、数人の仲間は逃げるまもなく波しぶきを浴びてしまった。

沖永良部島に着き、地元の方々に出迎えられてバスに乗り最初に北端のフーチャ、海が荒れたときは大きな岩穴から潮が何十メートルも吹き上げる、そんな穴が昔4つもあったそうだが遠くまで塩害をもたらすので3つは人工的に破壊したとのこと。観光よりも農業に重点をおいていることの表れだろうな。

「この木なんの木、気になる気になる名前も知らない木ですか・・・」いつもテレビで見る日立のコマーシャルの木、国頭小学校校庭に日本一のカジュマルという木があり樹齢111年、別名は締め殺しの木だそう。わずか100年くらいであんなに大きくなるんだね。

本日の沖永良部島の気象予報は80%の降雨ということであったが快適な天気になったと案内のバスガイドさんが言っていた。港で会った女性の写真家さんが是非島の人々の輝く笑顔を見てほしいとバスに同乗されて南州神社、西郷隆盛謫居の地へ赴き、沖永良部島の働く人々の笑顔の写真展を見せてもらった後、西郷吉之助(隆盛)が半年間閉じ込められたという吹きさらしの牢を見学、バス移

動、タラソおきのえらぶというプール、ジム、エステ等が整った健康施設の見学、和泊町営の実験農場、沖永良部地区の国営かんがい排水事業(地下ダム)建設地の視察研修。7年前沖縄県伊是名の灌漑ダムも見てきましたが、耕地を無駄にせず、そのまま活かしての地下ダム、このような方法もあるのだと感心しました。皆さんの智慧の結集ですね。

予定時間を大きく遅れて、フローラル館で和泊町、知名町の行政関係者、農業、漁業、商工関係の方々との意見交換が早足で進められた。与論島も沖永良部島2町ともに自活自給できる。頑張れば第1次産業、海にまで手を出さなくても農業で生計を賄える島であると確信しました。まだまだ海にしても、観光にしても何かをやろうと思えばこれから先も活かせる余裕のある島だと思った。そう、これから厳しい一途の日本、世界の中で自活自給できる環境、基盤があるということは実にすばらしいことだと思います。

交通手段の航空機、船舶にしても本土から往来してくれる人が多ければ成り立つわけで、沖縄や与論島観光は寄港する沖永良部島にとっても恩恵を受けていると思うので、お互いの島『互恵関係』で鹿児島県の離島、沖縄県の離島も共に頑張ってもらいたいものです。

将来、宇宙規模での天変地異がないかぎり、数ある離島の中でも、鹿児島から沖縄までの間に位置する奄美大島、徳之島、沖永良部島、与論島は全国の離島より交通の面でも恵まれていると思うし、第1次産業が守られ続けられれば自活できる島だと思います。

農家、漁家のみなさん頑張りましょう。

私のほうはといえば、原始的農業に光、今日では砂利の石扱いされている雑柑の甘夏、私はこの甘夏をダイヤモンドの原石、柑橘の味の原点とされていて、今これを磨き輝かせているところです。発想の転換とか逆転の発想とかで再生できるものがまだ沢山あるのではないかと思います。挑戦していきましょう。

私は、この研修に参加するまでは、沖縄周辺の島々はいつも強い台風が来てたいへんご苦労されている島だろうという思いしかありませんでしたが、台風が夏に雨を持って来てくれるから有難いのですという話を聞いて安心しました。

交流会では、民族衣装での踊りや文化までご披露してくださり、沖永良部に言わせれば、焼酎は与論より美味しいとか、でも時間がなくて、呑むのはそこそこに、みんなが輪になって踊りたいへんな盛り上がり、呑み足らなかつた分の最後のシメは知名町の夜の街に繰り出して、皆さん全員が歌われて、ドラム等の楽器までたたかれるなど楽しい時を過ごさせていただきました。

翌日は農業者の私のための農家研修が組まれていたのに残念でありました。別に早く帰らなければならない理由はなかったのですが、うちの3席分は他の方々にゆずりたい気持ちで早便に分乗させていただきました。

私は、まもなく還暦を迎えますが、同行させていただいた孫(10歳)が、今回のご縁で、またこの島を訪れることがあるかもしれませんので、そのときはよろしくをお願いします。

これまでの離島研修で感じましたことは、隣の島なのに大きな違いがあるのに驚くことがよくあります。島が隣同士なのに隣の島のことをあまり知らない人が多いのではないのかな、なんて思います。

金曜・土曜・日曜と貴重なお休みのとき、お時間をとってくださいました与論島、沖永良部島のお世話してくださった皆様に心より厚くお礼を申し上げます。たいへんお世話になりました。ありがとうございました。

研修から帰った翌々日10月26日はもう冬になりました。北海道は雪、東北も27日には雪が降るとか、こちら佐賀県玄界灘でも北風が強くおおしけになっています。沖縄の南には台風14号があって10月29日、30日と与論島、沖永良部島付近を通る予想、また奄美での大雨も心配です。

近年、特に今年は予想だにしない気象の変動の激しさ、気温、海水温、風、雨、雪、竜巻、高潮、旱魃などなどは記録づくめ、猛とか豪という文字がつかます。これからは自然災害対策への基金や気象災害特別会計などの準備、構築も町としても策が必要ですね。

この研修のために私は1年間を頑張り励んでいます。どうか皆さん来年も元気で会えますことを祈ります。

(平成22年10月27日 筆)

追記、台風14号が避けて被害がなくてよかったですね。

ありがとうございました。